



愛媛大と松山大の連携事業成果報告会

11月26日午後、松山市文京町

愛媛大と松山大 連携事業

チーム医療など共に学ぶ

学科超え活動 成果報告

愛媛大と松山大は26日、松山市文京町の松山大で連携事業（最大2年間）の成果報告会を開き、両大の教職員や学生ら約140人が耳を傾けた。

松山大薬学部臨床薬学教育研究センターの柴田和彦教授は「チーム医療」を学ぶため、同学部医療薬学科と愛

見は心に強く残った」「患者中心の医療を考

告もあった。連携事業は10年度に

媛大医学部の医学、看護両学科で2012、13年度に実施した合同授業を紹介。将来異なる職種で医療に関わる学生が、患者の講演やグループワークで各職

えるいい機会」など、柴田教授が学生の感想を示し「医療人としてチームをつくる重要性を学べた」と合同授業の意義を強調した。

始め、毎年度6件ほど採択している。柳沢康信愛媛大学長は「学生が一緒に活動することで成長を実感してほしい」と総括。村上宏之松山大学長は「成果を教育に還元し、地域に貢献していきたい」と期待を込めた。

種やチームとして果たすべき役割、意見の違いなどを考えたと報告した。

「他学科の学生の意見など、県警から「サイバーパトローラー」に委嘱されている両大の学生の情報技術力向上や、学生と県内企業のキャリア意識調査などの報

（森口睦月）